

みなで
考えよう
人権・同和問題
No. 210

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

差別と戦った東洋のスター

カンフー映画のアクションスター、故ブルース・リー氏を知っていますか。

1958年、彼は18歳の時、わずか100ドルの所持金を手に、香港から単身アメリカに渡ります。哲学などを学ぶかたわら、映画スターになることをめざして、日夜、訓練や武術を磨くトレーニングに励みます。しかし、そこに立ちほだかったのはアメリカ社会に根強く残る人種差別でし

た。当時のハリウッド映画では、東洋人（黄色人種）が主役となることは考えられない

ことです。彼は、ここで主役を演じることは不可能であるということを思い知らされ、絶望し、香港に帰国します。しかし、その後もトレーニングを積み、ようやく香港映画で念願の主役を演じることができました。香港での映画の大ヒットにより才能が認められ、ハリウッドで彼を主役とした

映画『燃えよドラゴン』の話が浮上します。この映画で彼が見せた超人的なアクションと迫力ある演技は、かつて東洋人として彼が受けてきた差別に対する怒りそのものだったのではないのでしょうか。

人種差別の問題は、今もサッカーの国際試合やオリンピックで時折報道されています。人は誰しも、無意識に差別をしてしまうことがあります。しかし、その向こう側に差別を受けて心を痛める人がいることを忘れてはいけません。だからこそ、差別をなくす活動が必要であり、誰もが差別をなくそうとする意識を高めていかなければならないのではないのでしょうか。

礼拝堂で美しいハーモニーを奏でました

第22回伊万里少女合唱団発表会

3月30日、ロイヤルチェスターイ万里で伊万里少年少女合唱団の発表会がありました。

発表会は3部構成で行われ、1部では『1年を振り返って(春夏秋冬)』と題して、『ふるさと』や家読のテーマソング『こころつないで』などが披露され、2部ではグラン・クール

ルや伊万里合唱団などが友情出演、洗練された歌声で会場を魅了しました。3部では佐野洋子さんの絵本『100万回生きたねこ』の合唱ミュージカルが上演され、心のこもった美しい歌声に、礼拝堂を埋めつめた観客からは温かい拍手が送られていました。



↑ グラン・クールと美しい歌声を重ねる団員たち

郷土の文化財

文化財展示施設②

陶器商家資料館

江戸時代の陶器商人の暮らしを伝える資料館

陶器商家資料館は、市指定重要文化財（建造物）の『犬塚家住宅』を資料館として活用しています。江戸時代後期の文政8年（1825年）に建築された商家で、白壁土蔵造の建物です。白い壁が美しく、江戸時代の伊万里の街並みの一端をつかがわせます。館内には、古伊万里の名品の数々が展示されていて、江戸時代の建築様式がそのまま残されています。建物自体が当時の建築技術を知る貴重な史料であり、当時の商家の雰囲気を感じることが出来ます。



◆ 問合せ先 生涯学習課 (☎2333186)

- 開館時間 午前10時～午後5時
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）
- 観覧料 無料

